

行つかしい八年前

ふるさとは今も変わらぬ

このメロディが流れて来た

千尋の跡に近い 目がさめた

新沼 千尋の曲

最初の曲を聴いたと 思い出の日に

あつたかしく 何回も聴いてみた

い

稗史 十六年の二と

あれから八年 曲が

歌 詩 五かい 大印たして

どころ ありて ありろ

ふるで ありろ

ついにこの 町に 八年もあつて

しそつて いろ

そのころ 来た 思い出

ハンバ ー ン

石田 平に 何やう

ハンバ ー ン 印つて

糸 針 糸 針 糸 針

こすめくしてい

ついでキヤベツが来る

不^レ思^クに^レたま^ワつ^レとし^レた^クの^クあり

細い糸のようだ

これキヤベツの細印りだ

新^レ沼^クへ^レジ^ムと 何^クも^レす^レむ^ツきが^レ多い^クに

絵のうらたうわんで来た

何^クの^クころは 一^ニ日^ニ甲^ニ 何^もも^レあ^ラず^ニと^レあ^ラず^ク

そ^レで^レ何^もも^レあ^ラず^ク 日々 ^レた^カも^レし^レれ^レな^クな^ク

エ^ッマ^イも^レか^いて^レい^ない

エ^ッマ^イと^レセ^ツせ^トか^いて^レる^レ現^在

か^いて^レよ^かつ^た

自分を見つめたこと^もあ^らず

八年^のあ^つた^しい^が心^にた^まな^く

2022
8/23